

## 第 1 回国立市中小企業等振興会議 要点記録

◇ 日時：平成 21 年 5 月 8 日（金） 午後 2 時 00 分～4 時 00 分

◇ 会場：市役所第 4 会議室

◇ 出席者：

- ・ 国立市中小企業等振興会議委員 12 名
- ・ 事務局 2 名

◇ 配布資料

- ① 次第
- ② 資料No.1 国立市中小企業振興基本条例
- ③ 資料No.2 国立市中小企業等振興会議設置要綱
- ④ 資料No.3 国立市事業所数表
- ⑤ 資料No.4 資本金額又は出資金額階級別 商業企業数、  
企業内商業事業者数、従業者数及び年間

◇ 要点記録

- ・ 委嘱状及び辞令交付
- ・ 市長挨拶
- ・ 自己紹介
- ・ 配布資料の確認（事務局）
- ・ 国立市中小企業等振興会議等について説明（事務局）
  - 委員構成について（農業関係者の増員）
  - 費用弁償について（謝礼として 9 月補正で対処）
  - 委員会の位置づけ（現行制度では、懇談会としての位置づけ）
- ・ 会長・副会長選出
  - 会長 林 大樹氏
  - 副会長 五十嵐 一典氏
- ・ 議題 質疑及び意見交換

委員：農業関係者の委員追加については、早急に対処してほしい。

事務局：国立市中小企業等振興会議要綱の改正が必要となるので事務局で早急に対処します。

委員：平成 18 年に条例が出来、会議も設置されたが国立市の現状はどんな状況なのか？

事務局：市の実態を詳細に把握している状況ではなく、条例の中でうたわれている会議の設置は必要があれば設置するという認識でいました。しかし、昨年 10 月以来の世界的な不況は国立市においても、その影響があるということで会議の設置が急がれ、要綱を策定し設置した次第です。

委員：会議の趣旨は、そうした状況からして、国立市の中小企業の実態を明らかにして産業振興になる提案をしていくことにあると思います。

委員：昨年 10 月から国の施策にも小規模企業に対する救済施策、また、市も緊急融資施策を講じてきていることは承知しているところですが、その実態はどのような状況なのか。

資料等があればお願いしたいです。

→ 20年度の融資状況（一部抜粋）を配布

<確認データ H. 21. 5. 13 現在>

単位：万円

種 別		法 人		個 人		合 計	
<b>20年度申請数</b>		<b>81件</b>		<b>38件</b>		<b>119件</b>	
20 年 度 決 定 数	運 転	14件	5,200	11件	2,100	25件	7,300
	設 備	3件	965	4件	1,270	7件	2,235
	運・設	2件	1,400	1件	70	3件	1,470
	開 業	1件	110	0件		1件	110
	緊 急	44件	28,780	11件	4,250	55件	33,030
計		64件	36,455	27件	7,690	91件	44,145
21 年 度 決 定 数	開 業			1件	400	1件	400
	緊 急	9件	5,550	2件	300	11件	5,850
計		9件	5,550	3件	700	12件	6,250
<b>合 計</b>		<b>73件</b>	<b>42,005</b>	<b>30件</b>	<b>8,390</b>	<b>103件</b>	<b>50,395</b>

注1 20年度申請中取り下げ14件 審査中4件

注2 20年度決定数のうち2件は、19年度申請分

委 員：市の制度融資について申請数の4分の1が実行されていないが、それは否決されたためですか？

事務局：市の限度額では折り合わず、他の制度にまわった事例もあるので、すべてが否決されたものということではありません。

委 員：意見としてですが、融資はあくまでも貸付であって借金な訳で、いずれ返さなければならぬものです。困っている人が返せるのかということです。無理とは思いますが、助成するようなものであってほしいと思います。

委 員：中小企業の自助努力も必要で、行政等に頼れば、結果、税金が使われる訳です。創意工夫で努力することも考えて行く必要があるのではないかと思います。

委 員：また、大企業の資本が入っているチェーン店は、結構なんでも揃っていて、つい便利に使ってしまう状況ですが、そうした店と個店とどう共生していくかを考えていくことも必要です。

委 員：中小企業もどう生き抜くか、生き残る道を考えることが必要です。大手企業があるからだめだとだけは言っていられないと思います。

委 員：しかし、自助努力の限界がきていると思うのです。

- 委員：自助努力の限界というより、社会の変化についていく努力が必要ではないでしょうか。中小企業なりに考えて行かなければならない。
- 委員：以前にもあった不況は、経営者にも責任があったと思いますが、今回の不況は社会的なもので小規模事業者の力では太刀打ちできない状況です。
- 委員：零細企業者はお金の事になると仕事が手につかなくなるくらい深刻。その位、現状は厳しい状況です。
- 委員：ものづくりの立場からすると、本当に厳しいです。受注から現金化するまでには時間がかかります。その間の運転資金をどうするか。とくに昨年10月頃から受注が大幅に減ってきていますが、どうにか回していかなければならない状況です。
- 委員：この会は、大企業の資本が入っている店にも、どうやって地域経済振興に関わってもらえるかを考えていくことも役割としてあると思います。
- 会長：産業構造の転換を考えていくことが必要だと思います。国立らしい産業構造とはどういうものか、将来を見通した産業構造のあり方など、それぞれの立場の方と情報共有ができればいいですね。
- 委員：1年に1回消費生活展を実施したり、いろいろな活動をしてきていますが、国立には、国立の特産物を扱っているKF（くにたち富士見台人間環境キーステーション）などもあります。そういう新しい工夫がされて国立らしいものが生まれてくるのがいいのではないのでしょうか。
- 会長：それでは時間になりましたので、今回は委員の方々に情報をもってきてもらい、話し合っていくことにしましょう。